

懸念される夏の電力供給不足。政府の節電要請に応じて、ホール5団体は東京電力管内で7～9月の3か月間、ピーク時電力を25%以上の削減に合意し、これをパチンコ・パチスロ業界の決意として社会に示すことになった。具体的には、「25%以上」のうち「15%」を月3回以上の《輪番休業》でまかない、残りの部分について「13%」を目標に《営業中の節電努力》でまかなうとしている。この決意を達成するためには、《営業中の節電努力》を各ホールがいかに自覚してくれるかが決め手となっており、ホール関係者を集めた「夏の電力不足対策説明会」などが企画されている。今月は、ホール5団体小委員会環境実務者会議の座長として、また日遊協社会貢献・環境対策委員会委員長として、業界の環境対策をリードする薛博夫氏に、正念場にさしかかった業界の節電対策について聞いた。

ゲスト

ホール5団体小委員会環境実務者会議座長
日遊協社会貢献・環境対策委員会委員長

薛博夫氏

薛さんは、業界として「節電で25%の数字」は必要と説く

せつ・はくふ

1954年生まれ。東京都出身。日本大学生産工学部卒。工作機械の商社を経て、1983年、富國物産(株)に入社し、パチンコ業に携わる。現在、同社常務取締役。同友会副代表理事。日遊協社会貢献・環境対策委員会委員長。ホール5団体小委員会環境実務者会議座長。趣味はパソコン組み立て。

聞き手 = 「日遊協」編集部

4 団体が、先の合意を4月以降も継続することなどを確認しました。これら一連の動きは、業界として大変素早い対応だったと思います。皆さんたちの環境実務者会議のご苦勞があればこ

— そんな中、4月10日、東京都の石原知事の発言が突然報じられました。「パチンコと自動販売機を合わせて1000万kW近い電力を消費している国は日本以外にない」と。だから、やりたければパチンコは「夜中にやればいい」云々というまことにセンセーショナルな発言でした。
震災直後は、都内でも多くのサラリーマンが交通機関の混乱で徒歩での帰宅を余儀なくされたり、東京電力の計画停電では、職場で

石原発言は kWとkW/h の間違いで

— これはまあ最初に、消費電力の「kW」と消費電力量「kWh(キロワットアワー)」の違い、というのがピンとききましたね。新聞で東京ドームとの比較を試みた記事が影響したんだろうと思います。その基になったのは全日遊連が行ったアンケート調査で出た数字です。私たちは、これを基に「エコホール宣言」などの省エネ運動を始めたわけですが、そもそもこれは一日の13時間の営業時間の中でパチンコ営業がどれ

— 東電管内のパチンコ店のピーク

努力を社会に示す「節電」 1日だって気を抜けません

— 東日本大震災は3月11日に起こりました。3月15日にはホール5団体が集まり、節電や被災地支援など7項目の震災対応策に合意しました。翌16日には21世紀会が開かれて、業界挙げてこの問題に取り組むことを確認しました。経済産業省からの省エネの要請が警察庁を通じてきました。業界では

— それではなかったらどうかと思います。業界の皆さんのご理解、ご協力の賜物だと思います。

— も家庭でもさまざまな影響を受けることになりました。そんな中で石原発言ですから、とくにパチンコを知らない人からは一定の共感をもって受け取られたことは事実です。日遊協にも同様な内容の電話が多くかかりました。

すぐさま対応
都知事に
訂正申し入れ

だけ電力を使っているかという量を表す数字で、いま東京電力の電力供給で問題になっているピーク時の電力とは違います。

— 実際は、この石原発言の前から実務者会議ではとにかく節電しないといけないということで、いったいパチンコホールは、東京電力管内でどのくらい電力を消費しているのかというのを調べ、計算して見ました。石原発言の前から、ネットを通じて同じようなパチンコホール批判はずっと続いていましたからね。同じような誤解を基にした発言も多く見られました。ですから、石原さんの発言を聞いたときは、直ぐにこれは「kW」と「kWh」の間違いだ、と気が付きました。おかげで、すぐさま数字をそろえて、4月18日、ホール5団体を通じて石原都知事に申し入れができました。

時最大電力使用量は、一昨年の推計で84万kW。昨年夏に記録した東電管内の最大使用電力6000万kWのおよそ1・4%に過ぎません。その後の業界の20%以上の節電努力も入れれば、もっと低い数字になっているはずだ。

**15%要請でも
業界としては
25%にすべき**

——4月25日のホール5団体代表者会議で、今夏の東京電力管内での電力供給不足に対応するための、業界としての電力需要ピーク時の使用電力削減の具体策が決められました。基本計画では「東京電力管内において、今夏に電力供給不足が予想されることから、東京電力管内のホールにおいては、25%以上の電力削減を行う」とあります。ここで、素朴な疑問がわくのですが、当初、政府は25%削減と聞いていたのですが、その後、東電の電力供給力の回復を受けて、15%でよろしいということになったのではないのでしょうか。世の中が15%とっているのに、どうして

パチンコ業界は25%削減しなくてはならないのかでしょうか。

薛 おっしゃるとおり、政府の国民に対する呼びかけは15%の削減です。夏場の電力不足は、6000万kWの予想使用量のうち、約10・8%不足すると東電ではいつています。その上に少し余裕を見て、15%というのが、政府の呼びかけです。しかしながら経団連では傘下企業に対して25%削減を求めていますし、自販機業界も25%削減を決めています。実務者会議としては、他産業が25%目標を掲げる中で、パチンコをしない人にも注目を浴びている現状から、パチンコ業界としても、ここはやはり25%を削減すべきだろうと考えました。それが国民の「業界に対する要請」だろうということなのです。

結果として、ホール5団体で25%以上削減することで合意がなされました。

**ホールの大小
休業も考えて
目標を設定**

——まず、「月3回以上（平日）の輪番休業を実施し、15%を削減する」とありますね。

薛 月20日間の平日の営業日数のうち3日間の輪番休業を行えば、ちょうど15%の削減という計算です。当然、15%以上ということですから、4日間休むというホールがあってもいいと思っています。

——さらに照明や空調などホール内の努力によって13%削減とありますね。合計25%削減なら、あと10%でいいのではな

いかと思いますか。

薛 細かい計算になりますが、3日間分の電力消費はすでに輪番休業で削減されています。残りの営業日数17日で20日営業した場合の削減目

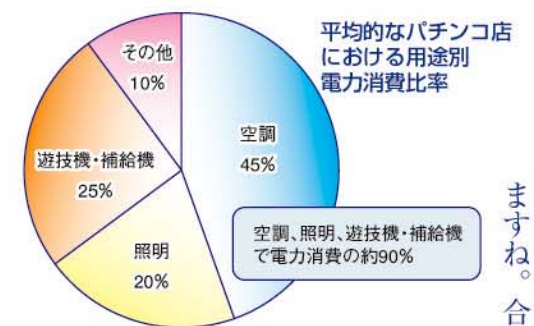
標を達成しようとする、10%では達成できません。あくまでも「10%以上」ということです。その達成を確実にするには、こうした数字が必要だろうということ。また、この計算は台数370台の平均的なホールを仮定したもので、それより大きいホールもあれば、小さいホールもありますから、そうしたことを含めると、このような目標を掲げる必要があるのかなと思います。

**照明と冷房
を中心として
6項目が基本**

——具体的にホールはどのようなことをしたらいいのでしょうか。

薛 「基本アクション」として6項目を挙げています。①外壁照明の終日消灯（1・0%の削減）②ネオン、看板、電光掲示板等の消灯（1・5%の削減）③ホール内の間接照明をつけない（1・0%の削減）④自販機の照明を24時間消灯（0・3%削減）④ホール内の照明を50%以上間引き（4・2%削減）⑤エアコンの設定温度を

平均的なパチンコ店における電力需要カーブのイメージ



インタビュー「明日を拓く」

努力を社会に示す「節電」1日だって気を抜けません



今夏の節電の取り組みをお客様と近隣の人たちに知らせるための節電ポスター。店頭に掲示する

2度上げる(5・0%の削減)。以上で13%となりま。さらに、LEDの導入、エレベーターの間引き、エスカレーターへの停止、断熱塗料、断熱材、フィルムの導入、空調の清掃、壁面や屋上の緑化、自販機の冷却時間の短縮などで節電効果があるとされています。

また、東電は電力需要のピークである9時から20時までの時間を抑えてください、といっていますので、「夜の8時過ぎなら、看板くらいはいいだろう」という声を耳にしますが、そうではありません。基本アクション(右表参照)であがっている節電対策は、すべての国民に「パチンコ業界も節電している」という姿勢を分かっていたら

節電行動計画

まずは、7つの基本アクションは必ず実行します		建物全体に対する節電効果
照明	外壁照明の終日消灯	1.0%
	ネオン、看板、電光掲示板等照明の消灯	1.5%
	ホール内の間接照明を点けない	1.0%
	自販機の照明を24時間消灯	0.3%
	ホール内の照明50%以上を間引き	4.2%
空調	エアコンの設定温度を2度上げる	5.0%
	地域ごとに複数の事業者で交代で休業する(7グループに分け、平日月3日休業した場合) 7月の休業日: 8月の休業日: 9月の休業日:	業界全体での節電効果 15%

さらに節電効果が大い以下のアクションも検討してください		
照明	LEDの導入	
エレベーター等	エレベーター間引き	4.2%
	エスカレーター24時間停止	0.9%
空調	断熱塗料、断熱材、フィルムの導入	0.8%
	空調の清掃(フィルター、室外機ファン清掃)	1.6%
	壁面や屋上緑化、よじすの導入	
OA機器	自販機の冷却時間短縮	0.5%

メンテナンスや日々の節電努力もお願いします		
照明	使用していないエリア(事務所、会議室等)の消灯を徹底	
空調	送風機、扇風機の設置	
コンセント	電源はコンセントから抜く(待機電力)	
その他	デマンド監視装置の導入	
	クールビズの推進	

従業員への節電の啓発も大事です		
節電啓発	業界の節電目標 従業員全員で共有する	
	具体的アクションについて従業員へ理解と協力を求める	
	従業員に対して家庭の節電についての理解と協力を求める	

「こうした取り組みをホールが確実に実行に移せるよう、いろいろな支援策も考えられているようですね。

薛 はい。その一つが6月7日に

確実な実行へ
6.7説明会
ポスターも

く活動なのだということを通じて理解いただき、ご協力をお願いしたい。とにかくこの夏場3か月だけは、これだけ我々は努力しているのだということ国民の前に分かりやすい形で示していくということが、基本アクションの趣旨でもありますからね。

もう一つがポスターですね。すでにポスターは完成しており、6月7日からは節電ホームページからダウンロードできます。これまでに説明した節電行動計画の基本フォーマットが一連のポスターのうちの一つに組み込まれていて、各ホールはその中にチェックを入れるだけで自店の取り組みをアピ

す。具体的な対策事例や「節電行動計画書」の作成方法が説明されます。相談窓口を設置するほか、展示スペースで節電関連機器を紹介、相談・商談も可能となっています。今回は東京を中心に近郊のホールが対象になりますが、東北電力が絡んでくれば東日本全体のキャンペーンも必要かな、などと考えています。

東京・すみだ産業会館で行う「夏の電力不足対策説明会」です。これはホール経営者及び店長、従業員の皆様に25%削減の重要性と削減方法を理解していただくための企画です。

監視装置の速報値が重要な役割

「ホールが実際に節電しているかどうか確認の方策が重要だ」との声があります。

薛 業界全体で25%の削減をなんとかしても実現しなければなりません。一部のホールだけが熱心に頑張っても、そうでないところが少しでもあれば、世の中から、パチンコ業界は節電していかないと言われます。具体的に、各月ごとに取り組みの結果、すなわち「実績値」を求められることは当然ありうると思います。そうしたときに、しっかりとしたデータを示せなくてはならないと思います。具体的には、デマンド監視装置によるサンプリング調査で速報値を出していくことを考えています。最終的には、全日遊連のアンケート調査結果で詳しく調べることになりませんが、これは半年後でなくては結果が出ませんので、やはりデマンド監視装置による速報値が大きな役割

「ホールが実際に節電しているかどうか確認の方策が重要だ」との声があります。

薛 業界全体で25%の削減をなんとかしても実現しなければなりません。一部のホールだけが熱心に頑張っても、そうでないところが少しでもあれば、世の中から、パチンコ業界は節電していかないと言われます。具体的に、各月ごとに取り組みの結果、すなわち「実績値」を求められることは当然ありうると思います。そうしたときに、しっかりとしたデータを示せなくてはならないと思います。具体的には、デマンド監視装置によるサンプリング調査で速報値を出していくことを考えています。最終的には、全日遊連のアンケート調査結果で詳しく調べることになりませんが、これは半年後でなくては結果が出ませんので、やはりデマンド監視装置による速報値が大きな役

インタビュー「明日を拓く」

努力を社会に示す「節電」1日だって気を抜けません



明るい表情ながら、節電の達成に意欲を燃やす薛さん

割をになうものと思います。

——デマンド監視装置の付いているホールは、この夏、非常に緊張しますね。

薛 確かに。電力会社が求めているのはピーク時の電力使用量の節電ですから、7月1日から7月31日までの1日でも削減目標を超えてしまったらダメなわけです。1日たりとも、気を緩められません。東電、東北電管内のすべてのホールがそうした緊張感を持ってやれるか、業界全体の姿勢が問われると思いますね。

——デマンド監視装置が付いているホールというのは、大変、意識の高いホールということが言えるのではないのでしょうか。

薛 そうですね。そういうホールは、昨年からすでに省エネと経費削減で節電を実施していますから、そこからさらに節電するというの

は、なかなか大変だろうと思います。でも、そうしたことを乗り越えて、なんとか目標を達成していてももらいたいと思います。私はできると思います。

現場が大切
どれだけ理解
深められるか

——デマンド監視装置の付いているホールというのは、いまどのくらいあるんですか。

薛 東電管内で約800です。メーカーにご協力をいただいて特別価格でモニター店を募集する予定で、あと100ないしは200店で導入していただくとありがたい。1000店が導入すれば、統計上も非常に重みのある数値が表でできます。

——全日遊連のアンケートというのは？

薛 3か月毎に各店の電気の請求書に記載されたピーク電力を報告させます。これは、かなりの実態を反映した調査になると思います。が、集計までに2、3か月かかってしまうのが難点ですね。

——さらに問題があるとしたらどういうところでしょうか。

薛 やはり、ホールの現場だと思っています。ホールの現場にまでこうした意識を伝えるというのはなかなか難しい作業だと思えます。ポスターや説明会もやりますが、これだけではなかなか現場にまでは行き届かない。私たちはこれまでも毎年3%、5年間で15%の電力削減の目標を掲げて「エコホール宣言」活動に取り組んできましたが、やはりなかなかうまく進みませんでした。ホール経営者の方、幹部社員の方から、繰り返しこの節電の大切さを一般従業員の方に説明していただきたいですね。

ただ、ここへきて、私は世の中ちよっと変わったのではないかと思っています。あの3・11以来、世間の雰囲気が変わってきた。今は、あらゆる人が自分たちの生活のために、少しでも節電しようと思っています。考えてみると、これは私たちの業界を変えるいいチャンスなのではないでしょうか。ホールもメーカーもお客さんも、全員の協力で節電を進めて行かなくては節電なんてそう簡単にできるものではないですね。今はしかし、

そうしたみんなが協力できる時じゃないでしょうか。

教えられて
育てられ
でもまだまだ

——薛さんは、07年12月の東京国際フォーラム「パチンコ業界の環境問題を考えるシンポジウム」の開催以来、業界の環境問題に一貫して取り組んでこられた。これまでを振り返ってみていかがですか。

薛 あのシンポジウムの頃は、全く何も知りませんでした。いろいろ専門家の方の話を聞いて、一つひとつ目を開かれる思いでした。いや、実は今だって何も分かりません。たまたま、環境問題を扱う委員会や部会の仕事をさせていたが、周りの人から教えられて、会議の中で知識を得てきたというのが実際のところなんです。そういう意味では、皆さんにここまで育てていただいたと思っています。

——夏はもうすぐです。業界の節電対策は待ったなしのお忙しい中でお話をうかがいました。ありがとうございました。